

モデル事業名	「外部の力」と地元の連携によるコミュニティ創生事業
活動団体名	石徹白地区地域づくり協議会
ホームページ	<a href="http://itoshiro.net">http://itoshiro.net</a>
所属/担当者名	石徹白地区地域づくり協議会 事務局 平野 彰秀
連絡先	電話番号：090-1538-4329、Eメールアドレス：info@itoshiro.net
活動地域	岐阜県郡上市白鳥町石徹白地区

### ● 活動地域の概要

- ・ 石徹白（いとしろ）地区は、福井県境にある中山間地域。住居地は標高約700mで、豪雪地域。
- ・ かつては奈良時代に起源を持つ白山信仰の重要な宗教拠点として栄えた（国重要文化財銅像虚空像菩薩坐像・国特別天然記念物石徹白大スギ他、国県市指定文化財多数が伝わる）
- ・ 人口推移（世帯数推移）：昭和40年/873人(196世帯) ⇒ 平成17年/316人(114戸) [※国勢調査]
- ・ 65歳以上の高齢者率44.8% [平成20年1月1日現在]
- ・ 70歳以上独居世帯数23戸(20.2%)・同2人暮らし22戸(19.3%) [平成20年1月1日現在]
- ・ 保育園児9名、小学生9名、中学生9名(各3%) [平成20年1月1日現在]
- ・ 最寄り市街地(郡上市白鳥町)より車で約40～50分(但し標高約900mの峠を越えるいわゆる峠道が約30分間続く)
- ・ 白鳥町市街地～石徹白地区～福井県へと通り抜けられる県道があるが、石徹白地区～福井県間は冬季積雪通行止、公共交通機関：市自主運行バス(1日3本、日曜・祝日・1/1～1/3休み)のみ
- ・ 中学生は地区外へスクールバスで通学。高校以上になると地区外へ転出・下宿し通学。
- ・ 主要産業：土建業、観光業(地区内3ヶ所のスキー場への客を対象とした民宿・旅館業)、農業
- ・ 地区内宿泊者数推移：平成17年度/36,731人、平成18年度/30,961人、平成19年度/21,504人
- ・ スキー場入場者数推移：平成10年度/497,022人、平成15年度/342,201人、平成19年度/299,144人



【位置図】

福井県境に位置する。地区北部は白山国立公園。



【夏季の地区の様子】

とうもろこしを中心に高冷地野菜栽培が行われる。しかし栽培可能期間が短く専業農家のみで生計は立てられる状況にはない。多くが冬季はスキー場でアルバイトをするなど副業を持っている。



【冬季の様子】一晩で1～1.5mもの降雪があるため必ず屋根の雪おろしが必要となる。高齢者にとっては重労働で過疎化に一層拍車をかけている要因の一つ。

### ● 活動地域の課題

本石徹白地区は、10年間で人口が約17%減少、高齢化率も約45%に達するなど、過疎化と少子高齢化が進んでいる。このため、自治会・PTA・消防団等のコミュニティの役割を、一人で或いは一家族内で何役も受け持たねばならない事態が生じている。また、一戸当りの負担金も人口減少と比例して増加しており、特定の人への役割集中と併せ、活発なコミュニティ活動が行えない要因となっている。

例えば、地区公民館・自治会が主催する「白山清掃ボランティア登山」という行事も、戸数減少による負担金増加とスタッフができる青壮年世代の人口減少等でこれまで通りには行えなくなっている。

地域文化についても同様で、少子高齢化による担い手不足と負担金増で白山信仰に関わる貴重な文化遺産であっても継承の危機にある。

このように、本地区は、過疎化と少子高齢化が原因で、現状のままでは地区内の様々なコミュニティ活動が継続できない状況にあり(もしくはそうなると予見されており)、新しいコミュニティの在り方を早急に構築しなければならないという課題を有している。

### ● 活動の内容

#### ・平成20年度

地区内の多様な地域文化のうち、地区内に50棟以上存在する**歴史的建造物**(多くが空き家)をテーマに活動を実施。  
※石徹白地区は、白山信仰を全国に広めた「御師」集落で、特異な建築様式の建物が残されている。

1. 地域資源として地域文化(=今年度は、歴史的建造物)が持つ価値を認識、共有化を図る
2. 地域文化の資源としての活用方策と地域文化維持方策等の検討
  - 1) 地域資源全体の中での地域文化の位置づけの検討：地域資源のリスト作成
  - 2) 地域文化の活用と維持システムの検討：**人口減少が続けば維持できなくなる⇒交流・移住促進を!**
  - 3) 交流移住につなげる「石徹白ファン」獲得への取組方策の検討  
：**石徹白地区外から来る人・地区の若者に、石徹白の地域文化をアピールする「石徹白塾」(仮称)を行おう!**
3. 地域資源を活用した活性化策の実施(社会実験)：**ボランティアによる石徹白伊織家修繕・清掃イベント実施**

## ・平成21年度

移住者・二地域居住者を増やすことで、過疎化・少子高齢化で維持が困難な地域コミュニティを再構築する。そのため、暮らしやコミュニティの魅力を発信する取り組みと、移住後の生計手段にもなり得、コミュニティ活動にも参加する「結い」的交流機会を提供するとともに、地区内の受入体制を整備する。

活動①：暮らしを知る「石徹白ファン」獲得事業

1) 「石徹白塾」開催による暮らしの魅力をPR

⇒ 暮らしを体験する「いとしろ青空学校」を5回開催

2) 「おたより」の発行による暮らしの魅力をPR

⇒ 石徹白の食材を使った「古民家カフェ」オープンに向けて、「1日カフェ」を8回開催

活動②：「結い」的交流提供事業～石徹白版農業ワーキングホリデーの実施 ⇒ 先進事例を視察

活動③：受入体制構築事業

1) 空き家データベースの構築

⇒ 岐阜女子短大による空き家調査ワークショップを開催

2) 受入システムの構築と対外的窓口の設定

⇒ ホームページに、窓口設置。石徹白暮らしのインタビュー掲載

活動④：事業の検証と改善作業

## ● 活動の成果

### ・平成20年度



「外部の力」を借りて地域文化の継承を図るモデルケースとして「石徹白伊織家の修繕・清掃」に取り組んだこと・地域文化の継承のための仕組みづくりを検討したことで、他の地域文化についても、「外部の力」を借りて継承を図ろうという機運が醸成された。

←【写真：石徹白伊織家見学会の様子】

### ・平成21年度



【いとしろ青空学校漬物体験】



【石徹白HP:空き家情報窓口】



【女性有志によるカフェ実験】

#### 1. 「石徹白ビジョン」の策定（～6月）

岐阜県・郡上市のサポートを受け、石徹白ビジョンを策定。

スローガンは「30年後も石徹白小学校を残そう！」

#### 2. 地域が主体となった運営体制に移行（8月～）

石徹白ビジョン実現に向けた実行段階に。地元が主体となって協議会を運営。

#### 3. 石徹白の暮らし・歴史を体験する「いとしろ青空学校」開始（10月～）

「歴史散策」「薬草体験」「漬物体験」「雪囲い体験」「かんじき体験（2月実施）」を実施。4回でのべ49名が参加。

#### 4. 若手を中心となり、石徹白公式ホームページ「石徹白人」立ち上げ（6月～）

若手有志によるHP制作委員会設立。石徹白地区公式HPを立ち上げ、地域の情報を発信。定住に関する情報も発信。石徹白暮らし体験談を掲載し、好評。経営コンサル会社「ブーズ&カンパニー」によるコンサル受入（9月～11月）

#### 6. 女性有志による「古民家カフェ」設立に向けた動き（10月～）

女性有志により、石徹白の料理を味わうことのできる飲食店を設立する動き。12月より、試験運営開始。これまで3回開催し、のべ133名が来店。

#### 7. 岐阜女子短大による「空き家調査」ワークショップの開催（2月～）

ワークショップ形式の調査実施。来年度夏も石徹白をフィールドにする予定。

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

平成20年度の活動によって、地域づくりの活動が始動し、平成21年度の活動によって、さまざまな具体的な動きが試験的に動き出したと認識している。動き始めた個々の活動を、持続的な活動につなげていくことが、平成22年度に向けた課題であると考えている。

### ・展望

－ いとしろ青空学校：1年を通じて、定期的に活動を実施。幅広く集客し、いとしろファンを広げていく。

－ 古民家カフェ：来年度はじめには、古民家を借り、本格的営業を開始したい。

－ 農業ワーキングホリデー：就農支援・とうもろこしオーナー制度の試験的な実施を検討。

－ 受入体制構築：貸し出し可能な空き家情報をホームページに掲載していきたい。

－ その他、2011年より修学旅行の民泊を受け入れる計画がある（1件予約済み）。この受け入れ体制を整えていく。

